



浜松歴まち散歩

歴史的風致
広報
第005号(特別号)



目次

はじめ	特別号の発行・浜松市の歴史まちづくりについて	1
浜松編	浜松城 天守門の再建・天守閣の改修	2
雄踏編	国指定重要文化財・中村家住宅 親しまれる交流の場に	3
舞阪編	東海道舞坂宿・歴史資源を活かした観光まちづくり	4
引佐編	都市景観大賞特別賞・川名ひよんどりの里	5
細江編	姫街道気賀宿・歴史資源を再発見	6
三ヶ日編	初生衣 <small>うぶぎぬ</small> 神社織殿の保存修理と石畳風歩道の整備	7
天竜編	国史跡へ指定 二俣城跡・鳥羽山城跡	8
水窪編	青崩峠を越えていく塩の道と三遠南信道	9
佐久間編	浦川の町並みを未来へ残していく	10
春野編	犬居城・秋葉街道などを活かした地域の盛り上がり	11
浜北編	秋葉信仰と秋葉山常夜灯・籠燈	12
龍山編	峰之澤橋・龍山橋など浜松地域遺産に認定	13
年表	合併20年の歩み〜歴史まちづくり〜	14

■浜松歴まち散歩・第005号(特別号)発行

令和7年7月1日、さまざまな歴史や文化を持つ12市町村が1つの市となり歩み始めて、20年を迎えました。この20年、浜松市の「歴史や文化を活かしたまちづくり」はどのように維持・向上できたのでしょうか。今回の特別号では、20年の歩みを年表で振り返るとともに、地域固有の歴史や文化の魅力を再発見するきっかけとなり、本誌を手にし、散歩気分ですり各地域を訪ねただけで魅力が再発見するきっかけになれば幸いです。

■浜松市歴史的風致維持向上計画（通称：歴まち計画）とは

浜松市は遠州灘・天竜川・浜名湖・三方原台地・赤石山脈など、起伏に富んだ地形や豊かな自然環境に恵まれています。また、街道沿いの城や寺社仏閣を中心に集落が形成され、そこに祭礼や芸能が行われ、農業・林業・魚業など風土に適した生業が営まれてきました。

ところが近年、建造物の荒廃や撤去、人口減少による地域コミュニティの希薄化・担い手不足により失われていく歴史的資源が数多く見られます。

このため、令和4年3月に本市は歴まち計画(文化財の保存・活用、都市計画や都市景観との整合・調和、地域の伝統や文化の継承、建造物の保全・活用など)を策定し、貴重な歴史的風致を活かしたまちづくりを推進しています。

浜松城天守門の再建



浜松城跡 天守閣と天守門

浜松地区は、浜松城を中心に東海道の城下町として発展してきました。現在でも街道沿いに残る短冊状の区画や社寺地、各町名から、かつてのまち並みの面影をうかがうことができます。

市制100周年記念事業として浜松城天守門が再建されました。平成23年から実施設計が始まり、平成26年に完成しました。良質な天竜材を使用するなかで、木材加工を地元高校生に参加してもらい、作業風景や建設当時の様子は、天守門のなかで動画を見ることができ

天守閣の改修

昭和33年には市民の寄付を募って復興天守閣が建設されました。令和3年1月、徳川家康公浜松城築城450年を機に展示内容をリニューアルし、令和4年12月、大河ドラマ「どうする家康」の放映前に外壁のひび割れ



浜松城公園

や塗装のはがれ、瓦の割れなど老朽化対策を実施しました。



観光ボランティアガイド



天守門に向かう坂



天守門の木材を加工する高校生

浜松城公園は、浜松市の中心部にありながら、豊かな緑に囲まれ、日本庭園・中央芝生広場・茶室・美術館などがあり、憩いの場として親しまれています。平日休日問わず、多くの方が訪れ、観光ボランティアガイドも活躍する、市民の活躍の場として大切にされています。



中村家住宅主屋

天正2年(1574)に徳川家康の側室お万の方が家康の次男である於義丸後の結城秀康を当屋敷で出産し、その時の胞衣(後産)を埋めた胞衣塚が現存しています。

中村家は、江戸時代には、徳川氏との関係が深い家柄であることから、一般の庄屋とは異なり、浜松城主と単独で拝謁できる独礼庄屋でした。

雄踏地区は、春から秋にかけて浜名湖で水中灯を船の軸先にともし、銚で力二や魚を突いたり、網で海老をすくって楽しむ「たきや漁」が有名です。江戸時代後期から伝わる農村歌舞伎「雄踏歌舞伎」は一時、途絶えましたが、平成元年に保存会が設立されました。息神社では民俗芸能の田遊祭が3月に行われております。

国指定重要文化財・中村家住宅の活用 親しまれる交流の場に

主屋は、江戸時代の貞享5年(1688)の建造物を平成13~15年に解体復元したものです。



主屋で行なわれたコンサートの様子

数年前から地元出身のミュージシャンや地元中学校の吹奏楽部によるコンサート、書道展、お茶会、歴史講座などに活用されています。

中村家住宅は、国指定の重要文化財であり、地域の誇りであると同時に、人々に親しまれ、交流の場となっています。今後も、さまざまなかたちで地域と連携した中村家住宅の保存活用が期待されています。

地域の皆さんが活用



文化財防火デー 防火訓練の様子

舞阪地区は、近世のころから東海道の東西を結ぶ交通の要衝として、遠州灘と浜名湖を漁場とする港町として発展してきました。舞阪の「海苔生産用具」が県の指定文化財に「旧舞阪脇本陣」が市の指定文化財となるなど、漁村と宿場町の面影を残す地区となっています。

東海道舞坂宿・歴史資源を活かした観光まちづくり



旧舞坂脇本陣

令和7年5月、JR東海初となる直営のレンタサイクル拠点が弁天島海浜公園に開業しました。自転車で浜風を感じながら、東海道舞坂宿、松並木、漁具や祭事が展示されている舞阪郷土資料館とあわせて浜名湖のグルメ、温泉な



歴史・文化を活かしたまちづくり 浜松市

舞阪大太鼓祭り (岐佐神社例祭)

歴まちカード

どお楽しみいただけます。令和7年10月から12月には浜松・浜名湖ツーリズムビューローが今切の渡しと宿場町散策ツアーを開催しました。舞坂宿にて今に残る渡船場「北雁木」などを舟から見学し、新居宿の関所跡などの散策を楽しむことが出来るツアーでした。



今切の渡しツアーを楽しむ参加者

提供 浜松・浜名湖ツーリズムビューロー

舞坂宿から新居宿までの船の旅は、今こそエンジン付きの船ですが手漕ぎの船では大変だったことが伺えます。

舞阪地区では、漁業に係る神社をはじめ、館車や大太鼓が引き回される祭りがあります。浜名湖の生活や生業と一体となって地区の魅力あふれる良好な市街地環境が形成されています。

舞阪の灯台の所に、舞阪図書館と併設された郷土資料館があります。そこには舞阪の人々の漁業に関わる営みが数々の展示物で紹介されています。



浜名湖の生活と生業



姫様道中と気賀関所・冠木門

気賀宿の歴史資源を再発見

細江地区は奈良時代からある本坂道が通り、江戸時代は東海道の脇街道として姫街道（本坂通り）の要所として気賀関所と気賀宿が置かれていました。気賀関所は現在の気賀四ツ角付近に冠木門があり、敷地内には本番所や向番所などがありました。平成2年には近くに関所が復元されています。気賀宿の南を東西に流れていた要害堀の一部や、気賀宿の西口の石積みみの榊形が、今も残り、江戸時代の姫様道中を再現した行事も有名です。7月には「細江神社祇園祭」も行われます。

※「浜松歴まち散歩第1号」で詳しく紹介しています。

細江神社祇園祭では、御神体の乗った神輿が浜名湖の湖上を渡り、気賀の各地を巡行します。この神輿が浜名湖の湖上を渡る特徴的な様子を「歴まちカード」で紹介を始めました。

また、桜の季節の伝統行事となった姫様道中では、令和8年3月28日の開催で73回目を迎えます。令和8年の姫様道中では地域の小学生による「こども姫様道中」も企画され、これからも官民の協働で行事が繋がられて行きます。



細江神社祇園祭

歴まちカード

以前から官民協働で「いにしへの町づくりの会」が切り絵を担当した伝承看板が33カ所あります。

子ども達も切り絵を見て歴史に触れ学ぶことができ、観光客も歩いて楽しめます。



切り絵の看板を巡るガイド



気賀の路地に佇む気賀教会

気賀関所では、関所西側の冠木門の修復が予定されています。撮影人気スポットの気賀関所の景観維持のため、今後必要な修復を行うっていきます。

一本路地に入った所の築120年を超える日本キリスト教団気賀教会で静岡県で2番目に古い木造の教会です。大正4年に建設され、外壁も数年ごとに塗り替え、大切に受け継がれています。浜松市の地域遺産にも認定されています。時々市民のコンサートも開かれます。

細江地区は奈良時代の条里の跡や引佐細江、姫街道の歴史的風致が多く、訪れる人に、さまざまな団体が案内するなど地域を再発見する機会にもなっています。参加者から好評を得ています。



真新しい境内 織殿(右)と本殿(中央)

みかんの産地で有名な三ヶ日地区は、江戸時代には姫街道の宿として三ヶ日宿が置かれていました。また、平安時代から中世にかけて伊勢神宮の荘園である御厨が置かれるなど伊勢神宮と関わりが深い地域でもあり、浜名惣社神明宮や初生衣神社では古くから伝わる祭礼が今も行われています。初生衣神社は遠州織物発祥の地と言われ、機織の神、天棚機媛命が祭神です。古来より神御衣を織って伊勢神宮に奉獻してきたと伝わり、4月の第2土曜には地域と織物関係者により例祭の「おんぞ祭り」が行われています。境内には織殿があり、古式の織具一式を所蔵しています。

初生衣神社織殿の保存修理と 石畳風歩道の整備

令和5年度から初生衣神社織殿の保存修理工事が実施されました。工事は劣化損傷の状態から一度全解体し、基礎部分から修理を行う大規模なものでした。同時期に改修していた本殿玉垣の工事も完了しました。今回の保存修理では、一部費用をクラウドファンディングで調達するなど、地域内外の活用も利用して行われました。市では、※おんぞ祭りの祭礼ルート上である初生衣神社前の歩道を石畳風に舗装し、歴史を感じる空間整備を実施しました。今後も、官民連携した歴史まちづくりに取り組んでいきます。

※「浜松歴史まち散歩第4号」で詳しく紹介しています。



多くの寄付や関係者



殿かに行われるおんぞ行列



整備された初生衣神社前の歩道



二俣城跡天守台

国史跡へ指定 二俣城跡・鳥羽山城跡

天竜地区には、山に響く花火の音が人気の「鹿島花火大会」。「世界のホンダ」の創業者・本田宗一郎の生まれ故郷で少年時代を過ごしたことから、その生き方や歴史を紹介する「本田宗一郎ものづくり伝承館」、車両基地や転台車の見学ツアーが人気の「天竜浜名湖鉄道・天竜二俣駅」、国指定史跡の「二俣城跡及び鳥羽山城跡」などがあります。

平成30年2月「二俣城跡及び鳥羽山城跡」が国の史跡へ指定されました。両城は、機能の違いが明白であり、対で一つの城を構成する「別城一郭」としての高い価値が認められました。二俣城は「天然の要害」に築かれた重要な軍事拠点で、鳥羽山城は開放的な大手道や庭園など迎賓機能を備えていました。

浜松市における国史跡の指定は、三岳城跡（浜名区引佐町三岳・昭和19年指定）、蜷塚遺跡（中央区蜷塚四丁目・昭和34年指定）に続き、3件目でした。



鳥羽山城跡大手道

要衝の地 二俣

二俣城は、天然の要害の地といわれ、天竜川と旧二俣川で三方を囲まれた城です。寛政3年（1791）以前には、二俣城と鳥羽山城の間を二俣川が西に向かつて流れ、天竜川と合流していました。交通路が交差する要衝の地ゆえに重要な軍事拠点として徳川氏と武田氏が領有をかけて激しい戦いを繰り返しました。



三方を川に囲まれた二俣城



二俣ふれあいセンター「壬生の里歴史講座」

二俣城跡及び鳥羽山城跡は、国指定の史跡であることから、地域の誇る文化財として、大切に維持されており地域住民や「二俣未来まちづくり協議会」により桜の保護や草刈り、園路や側溝の落ち葉清掃などが定期的に行われています。

令和5年からは「二俣歴史文化塾」として二俣ふれあいセンターが地元の歴史文化を学ぶ機会を設けています。

今後も、地域や行政をはじめ多様な主体の参画により、天竜地区の歴史や文化の魅力を活かしたまちづくりが期待されています。



地域住民による清掃活動



登山ツアー・ガイドの様子

青崩峠を越えていく

塩の道と三遠南信道

水窪地区は、長野県の県境に位置し「峠の国盗り綱引き合戦」や7年に一度水が湧き出す幻の池「池の平」、遠州攻略を目指す武田軍の拠点ともなった「高根城跡」や、街を一望できる「高根城公園」が有ります。

長野県飯田市と静岡県浜松市の県境にある峠を「青崩峠」といい、付近は青みを帯びた崩れやすい岩盤で、

中央構造線が近い市街地は「塩の道」とも呼ばれた「秋葉街道」が縦断し、宿場町として栄えた街であり「西浦の田楽」「念仏踊」「八幡神楽」といった伝統的な民俗行事とともに「水窪まつり」のような屋台の引き回しと、最近では仮装大会で賑やかな祭も行われています。



高根城と水窪市街

青崩峠トンネル（仮称）貫通
提供 国土交通省飯田国道事務所

トンネルを通すことが困難な地質と言われていました。**難所だったトンネル貫通**
国土交通省直轄事業として進められている※「三遠南信自動車道」の青崩峠トンネル（仮称）は工事の難所でしたが、土木技術の進展により、令和元年から掘り始めたトンネルは、令和5年に貫通し、令和7年3月には本坑の工事完成式が行われました。

今後、全線開通により地域の交流及び連携強化、災害に強い道路網の構築、地域医療サービスの向上、観光交流など地域の活性化につながることが期待されています。



兵越峠の国取り合戦

水窪地区で活動する「NPO法人 山に生きる会」では「塩の道」の修繕・整備や清掃などの維持活動、登山ツアーや講習会を開催しています。歴史ある「塩の道」を当時の往来を感じながら時間をかけて歩く楽しさと「三遠南信道」による新たな交流が生まれ、地域の歴史や文化の持続的発展が図られることと思えます。

※長野県飯田市を起点として、浜松市浜名区引佐町に至る延長約100kmの高規格道路です。

浦川の街並みを
未来に残していく

浜松地域遺産に認定された浦川の街並み



地域の人から話を聞く学生

令和7年の夏休み期間及び11月から12月にかけて、浜松市・湖西市内の小学校に通う児童を対象とした両市共催「親子で楽しむ食育体験プログラム」の1つとして「佐久間町・浦川の古民家で、昔ながらの生活を

「親子で楽しむ
食育体験プログラム」

佐久間地区は、日本屈指の規模を誇る「佐久間ダム」「竜神まつり」、「浦川歌舞伎」などの伝統芸能、数多くの民話が語り継がれています。また、浦川の町並みは、伝統的建造物群として浜松地域遺産に認定されています。

体験しよう！1泊2日の「泊ツアー」が地元企業によって開催されました。地元野菜や山菜を収穫し、料理体験やそば打ち体験を通じて、地域で暮らすお母さんたちの知恵も教えていただくものでした。

学生フィールドワーク
・プログラム

令和7年6月から7月にかけて、浜松市内の学生（大学(院)生、専門学校生、高校生）を対象とした、地域課題の発見から解決策の提案までを体験的に学ぶ探求型プログラム「浜松市中山間地域 学生フィールド

ワーク・プログラムインサクマ」が浜松市主催で開催されました。1泊2日のプログラムにおいて、浦川の古民家がフィールドワークの拠点となり、実際に地域の方々との対話や意見交換などの交流の機会も設けられました。

浦川の町並みをはじめ、佐久間地区の多様な魅力は、交流人口の拡大、さらには移住定住の促進にも寄与し、観光産業をはじめとした地域の活性化に繋がるものと期待されています。



五平餅づくりの体験

犬居城・秋葉街道などを 活かした地域の盛り上がり

春野地区は、全国各地に祀られている「秋葉神社の総本宮」、縦8m・横6m・鼻の高さ4mの「日本一の大天狗面」、宝塚歌劇団を象徴する歌「すみれの花咲く頃」の日本語歌詞の作者である白井鐵造氏の記念館があります。国の天然記念物「京丸のアカヤシオ及びシロヤシオ群生地」、国登録有形文化財「旧気多村立勝坂小学校校舎」など貴重な自然や文化財も魅力です。



堀之内の城山ウォーキング参加者

令和5年、大河ドラマ「どうする家康」ゆかりの地であることを活かして地域をもっと盛り上げたいという地域の皆さんの熱い想いをきっかけに、静岡県内でも代表的な中世城郭跡で春野地区などを治めた天野氏の居城「犬居城跡」、家康公ゆかりの史跡「堀之内城山城跡」など歴史的地域資源を活用したウォーキングが開催されました。開催には市民団体の「テングッドプロジェクト」など地域の皆さんが、企画から実施まで積極的に関わりました。



日本一の天狗面

これらの活躍は、春野地区だけでなく浜松市中央区の学校でも注目され、総合的な学習の時間のなかで生徒へ紹介されました。ほかにも、春野地区を中心に地域づくりに取り組む団体は複数あり、すみれの里づくり、祭礼行事、史跡など多様な地域資源を活かして活躍されています。身近な地域資源を通じた中山間地域と都市部との交流の広がりも期待されています。



秋葉山参道入口の九里橋で企画を相談する様子

秋葉山表参道の入口に掛かる九里橋。その名は掛川宿へも浜松宿へもここから九里の距離を示すものです。坂下集落は、かつては坂下宿として秋葉山参詣者を迎えるための茶屋や旅籠が立ち並んでいました。今もその名残をとどめています。

浜北地区は、秋葉山を中心に網の目状に広がる秋葉道の中でも東海道浜松宿から北上するルートの中間に位置しています。浜名湖北部方面からの秋葉道の合流点にもあたり、要衝として賑わった地域です。明治8年創業、100年以上の歴史を持つ国登録有形文化財「明治屋醤油」が有名です。

秋葉信仰と秋葉山常夜灯・龍燈



秋葉山小松鳥居春季大祭

江戸時代中期以降、秋葉山参詣者の道しるべとして、あるいは集落内の安全や火防を祈願して、秋葉山常夜灯が秋葉街道沿いや道の辻などに建てられました。

活動が続けられています。これらの建造物のうち市指定の文化財は「小松秋葉大鳥居」「秋葉街道貴布祿の道標」「小松秋葉山常夜灯」「上島新田組秋葉山常夜灯鞘堂」です。鞘堂のことを当地域では特に「龍燈」と呼びますが、これは水と司る龍に火伏の利益を期待して龍の字が付けられたものと考えられます。



修理工事の瓦はずし作業

が、秋葉山常夜灯・龍燈のある風景と人々の信仰の営みは今も続いています。

浜名区小松秋葉神社の龍燈（市指定文化財小松秋葉山常夜灯の鞘堂）は、老朽化により倒壊の恐れがあったため、令和7年7月から修理工事が行われました。工事は秋葉神社小松鳥居世話人会の事業として文化財修理の経験の豊富な業者が施工し、浜松市文化財登録者も瓦はずし作業を手伝いました。工事は12月に完了し、令和8年1月28日の秋葉山小松鳥居春季大祭では、よみがえった龍燈が披露目されました。

小松秋葉神社の龍燈の修理

文化財指定の有無にかかわらず、浜北地区には秋葉山常夜灯・龍燈を地域の火防信仰の場として大切にす文化が根付いています。明かりは灯明から電灯へと変わり、道路拡幅などでの移転や建て替えもあります



修理完成時

龍山地区は、治水の大功労者金原明善翁きんばらめいぜんが明治19年に天竜川上流部に植林を進めた最初の地です。秋葉ダムと桜の風景とマラソン、昭和56年から始まった産業祭、初節句を祝う伝統行事「ぶか凧」が有名です。

峰之澤橋・龍山(竜山)橋など

浜松地域遺産に認定



初節句を祝うぶか凧 (写真は瀬尻寺尾)



峰之澤橋

天竜川に架かる峰之澤橋・龍山(竜山)橋は地域の大切な道としての役割だけでなく写真スポットや観光資源として親しまれており、令和2年には浜松地域遺産に認定されました。秋葉ダム上流側に架かる「峰之澤橋」は昭和32年竣工で全長約155メートルあります。峰之沢鉦山が稼働中にはこの橋を渡って多くの人が

※浜松地域遺産：地域で大切にされてきた幅広い文化資源の顕彰を目的とする制度。龍山地区では、白倉峡など計7件が地域遺産に認定されています。

令和8年3月時点



秋葉ダムさくらマラソン

対岸のバス停から町に出かけていたようです。下流側に架かる「龍山(竜山)橋」は昭和46年竣工で全長約164メートルの赤い橋梁が特徴です。市では5年に1回の橋梁法定点検、点検結果に応じた修繕や塗装などを実施し、これからも地域に長く親しまれ、安心安全に使用していただけるよう両橋を維持管理していきます。

ここ龍山地区では満開に咲いた千本桜を見ながら、湖畔の下を走る「第49回秋葉ダムさくらマラソン」が令和8年3月29日(日)に予定されています。コース周辺の「峰之澤橋」「龍山(竜山)橋」をはじめ、龍山の魅力ある歴史や文化を訪ねてみてはいかがでしょうか。

合併20年の歩み ～歴史まちづくり～

2005 平成17年 ①12市町村合併 新「浜松市」誕生
③浜松市屋外広告物条例施行（以前は旧条例又は県条例）

2006 平成18年 ②「みかんの里資料館」開館

2007 平成19年 ①政令指定都市へ移行
②「鈴木家住宅 主屋・釜屋」が国の重要文化財に指定
（浜名区引佐町の間）
③第1次浜松市総合計画を策定
③西遠広域、奥浜名湖広域、天竜、三ヶ日の4つの
都市計画区域を統合し「浜松都市計画区域」を指定

2008 平成20年 ②日伯移民100周年。ブラジルの空に浜松の大凧が舞い上がる
②「実相寺庭園」が静岡県の名勝に指定
③「浜松市景観形成基本計画」「浜松市景観計画」を策定

2009 平成21年 ②浜名湖「湖北五山めぐり」推進事業が開始される
②木下恵介記念館が旧浜松銀行協会に移転オープン
③浜松市景観条例施行

2010 平成22年 ②本田宗一郎ものづくり伝承館がオープン
③浜松市都市計画マスタープラン策定
③浜松市中山間地域振興計画策定

2011 平成23年 ①市制施行100周年
②天竜浜名湖鉄道が全線にわたり駅舎や鉄橋など31ヵ所が国の登録有形文化財に登録

2012 平成24年 ①三遠南信自動車道（鳳来峡～浜松いなさ北）が開通
②文化財防災ボランティア養成事業を開始

2013 平成25年 ②浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会が設立

2014 平成26年 ①長野県飯田市との県境で行われる「峠の国盗り綱引き合戦」がサントリー地域文化賞を受賞
②浜松城天守門竣工
②中山間地域の魅力を発信する「山フェス」を開催

2015 平成27年 ②犀ヶ崖資料館がリニューアルオープン
②「国営三方原用水二期土地改良事業」着手
③第2次浜松市中山間地域振興計画策定
③浜松市新総合計画スタート

2016 平成28年 ②浜松地域遺産制度（認定文化財制度）開始
③浜松市民俗芸能の継承及び振興に関する条例施行

2017 平成29年 ①大河ドラマ「おんな城主直虎」に沸く
②「浜松市地域遺産センター」開館

2018 平成30年 ①「二俣城跡」「鳥羽山城跡」が国の史跡に指定

2019 令和元年 ①三遠南信自動車道（佐久間川合～東栄が開通
③浜松市立地適正化計画策定

2020 令和2年 ②「光明山古墳」が国の史跡に指定
②中山間地におけるベンチャー企業の誘致拠点となる「天竜トライアルオフィス」を天竜区二俣町に開設

2021 令和3年 ②旧元城小学校跡地で浜松城二の丸御殿の礎石などの建物基礎を発見
③浜松市都市計画マスタープラン改定
③浜松市文化財保存活用地域計画策定

2022 令和4年 ③浜松市歴史的風致維持向上計画策定

2023 令和5年 ①大河ドラマ「どうする家康」に沸く

2024 令和6年 ①3区制（中央区、浜名区、天竜区）スタート

2025 令和7年 ①合併20周年
③第3次浜松市中山間地域振興計画策定



12市町村合併 新「浜松市」誕生



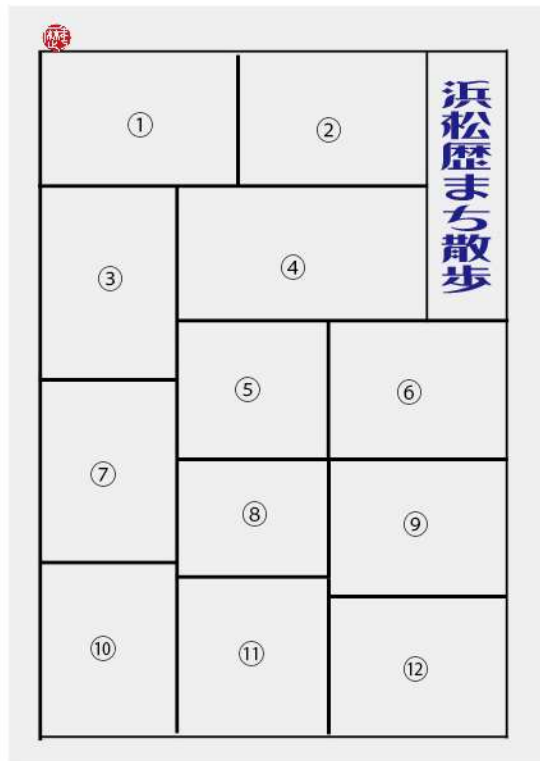
本田宗一郎ものづくり伝承館オープン



大河ドラマ館「おんな城主直虎」



大河ドラマ館「どうする家康」



- ① 佐久間編 浜松地域遺産に認定された浦川の街並み
- ② 天竜編 二俣城跡天守台
- ③ 引佐編 都市景観賞の川名地区
- ④ 雄踏編 中村家住宅主屋
- ⑤ 浜北編 秋葉山小松鳥居春季大祭
- ⑥ 浜松編 浜松城跡 天守閣と天守門
- ⑦ 三ヶ日編 初生衣神社 織殿(右)と本殿(中央)
- ⑧ 春野編 堀之内の城山ウォーキング参加者
- ⑨ 龍山編 初節句を祝うぶか凧(写真は瀬尻寺尾)
- ⑩ 舞阪編 旧舞坂脇本陣
- ⑪ 細江編 姫様道中と気賀関所・冠木門
- ⑫ 水窪編 登山ツアー・ガイドの様子

浜松歴まち散歩 第005号(特別号)

令和8年3月



浜松市都市整備部都市計画課

〒430-8652 浜松市中央区元城町103-2

電話: 053-457-2371

E-mail: toshikei@city.hamamatsu.shizuoka.jp